

国際統計年 (2013 International Year of Statistics) について

国際統計年とは？

幅広い人々に統計学への理解・関心を深めてもらうために、国際統計協会 (ISI) などが 2013 年を国際統計年と指定しました。

○国際統計協会 (ISI)・・・1885 年に世界の著名な統計学者や主要国の統計局長等の提唱によって設立された、統計に関する国際的な学術団体で、現在、世界中に約 2,000 名の会員がいます。総務省統計局長も会員となっています。また、川崎茂元統計局長は、ISI の理事であるとともに、ISI の一部門として 1985 年に設立された学術団体である国際公的統計協会 (IAOS) の次期会長に選任されています。

なぜ、2013 年が国際統計年となるのでしょうか？

ヤコブ・ベルヌーイの「Ars Conjectandi (予測術)」発表 300 年及びトーマス・ベイズの「Bayes' theorem (ベイズの定理)」発表 250 年を記念して指定されたものです。

○ベルヌーイの予測術・・・スイスの数学者、科学者であるヤコブ・ベルヌーイによる確率論に関する業績を記したものであり、ベルヌーイの死後、1713 年に発表されました。ここに示されている、「ある現象の起こる確率をきめるには、数多く試行を繰り返せば、より正しい確率を示す」という理論「大数の法則」は、現代の確率論の基本的原理となっています。

○ベイズの定理・・・ある出来事が起こった際に、それがどのような状況下で起こったものなのかを確率的に知るための定理。イギリスの長老派の牧師・数学者であるトーマス・ベイズによって示された定理であり、ベイズの死後 1763 年に発表されました。現在でも多くの分野において用いられており、例えば、受信した電子メールが特定の語句を含んでいる場合に、当該メールが迷惑メールか否かを判定するシステム等に応用されています。

参加国数などは、以下のとおりです。(2013 年 1 月現在)

参加国 約 110 か国

参加団体 約 1600 団体

(大学 42%、研究機関 18%、企業 16%、政府 13%、統計関連団体 11%)

活動内容としては、幅広い人々に統計学への理解・関心を深めてもらうため、各国の高等教育機関における数理統計分野に関するシンポジウム、ワークショップなど様々な催しが各国で開催されています。

国際統計年に関する公式ウェブサイトはこちらになります。

<http://www.statistics2013.org/>